



家庭

100%スモークフリー（訳注：たばこの煙のない状態）の家庭を築くことが、家庭における受動喫煙への曝露から子どもや非喫煙者を完全に守ることのできる唯一の方法である

個人の家庭は一般的に政府の規制の手が届かないと考えられているので、家庭での受動喫煙への曝露から子どもを守るためには、家庭の中での喫煙制限を家族が自発的に採用することに子どもは頼らざるをえない。家庭における喫煙制限の厳しさは様々である。ある家庭ではあらゆる場所で常に喫煙が禁止され、別の家庭では場所によって、あるいは時間によって喫煙できるようにしている(3,51)。しかし、受動喫煙への曝露から子どもや非喫煙者を完全に守る唯一の方法は、家庭を完全に禁煙にすることである(3,52)。成人の喫煙者と乳児のいる家庭を対象とした英国の研究によると、完全に喫煙を禁止した家庭の乳児と喫煙を禁止していない家庭の乳児との間で、平均尿中コチニン濃度に有意な差が生じていた。喫煙制限がそれほど厳しくない家庭の乳児と喫煙を禁止していない家庭の乳児の平均尿中コチニン濃度には、有意差は認められなかった(53)。

自発的に家庭の禁煙ルールを決める家庭が増えているということは、人々の喫煙を容認する態度が変化している指標である(3)。米国ではスモークフリーの家庭の割合が過去10年間でかなり増えた(3)。2003年の米国国勢最新人口



調査のデータによると、米国の家庭の大多数(72.2%)は家庭の禁煙ルールを持っていた。この割合は1993年(43.2%)からほぼ2倍となった(28)。しかし、米国のデータは喫煙者を含む家庭一したがって、ほとんどが家庭での喫煙制限を必要としている一は禁煙ルールを持っていない可能性が高いことを示している。米国の成人に対して実施された2001年たばこ規制に関する社会環境調査(2001 Social Climate Survey of Tobacco Control)によると、喫煙者は非喫煙者と比べ家庭で喫煙を禁止している可能性がかなり低かった(それぞれ30.2%と86.3%)(54)。同様に、カリフォルニアの成人から得た調査データの研究では、喫煙者は非喫煙者と比べて、家庭や車で喫煙を禁止している割合が低かった(55)。

世界的には、スモークフリー家庭の割合に関するデータは限られている。成人喫煙者への電話調査である国際たばこ規制4カ国調査(International Tobacco Control Four Country Survey)は、2回実施した調査により喫煙者の家庭で自己報告された喫煙禁止の割合を評価した。2002年10月から12月にかけて実施された最初のデータ収集では、喫煙者の家庭における喫煙禁止割合は英国の15%からオーストラリアの34%の範囲であった。7ヵ月後に実施された2回目の調査では、喫煙を続けていた個人家庭での喫煙禁止割合は英国ではわずかに19%に、オーストラリアでは43.1%に上昇した(49)。